

今回の目玉、
ガブッといくぞ〜！

彦

い

ち

第4回 雑草と格闘！そしてまさかの全滅!?



彦いち農場は、減農薬栽培。誰が食べてもうまい野菜が
ウリでございます。今回、秋に向けて新企画も始まりますが、
- その前に待望の夏の収穫祭編をお送りします！

文/林家彦いち  撮影/佐藤秀明

耕

し

ばなし
噺



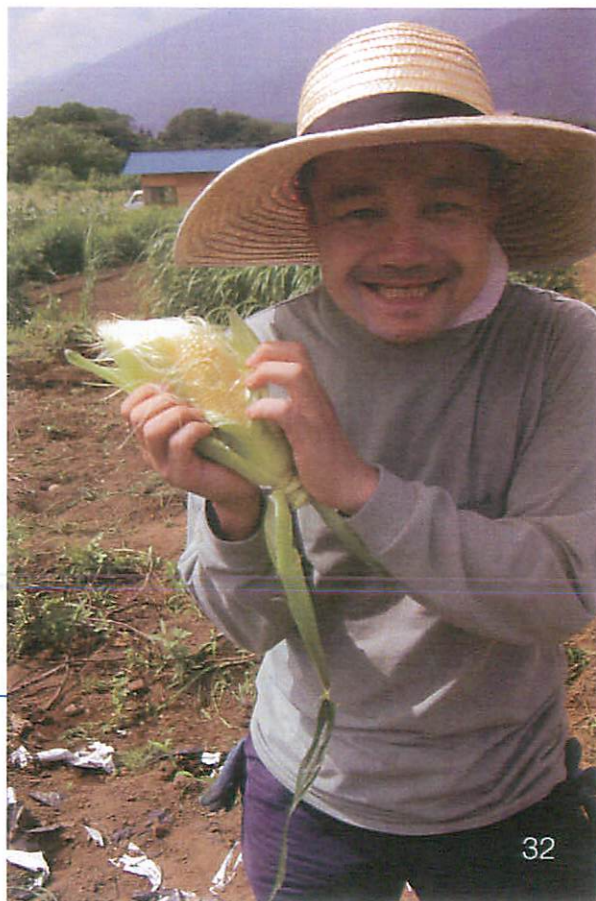
快晴の中、しばらくぶりに畑に向かう。世話人の松坂さんが作ってくれた畑近くの小屋でせっせと着替え、畑マンに変身。先に着いていた佐藤秀明さんが「すごいよお」と言う。我々が、ポカンとしてると、「雑草がスゴいんだあ」と笑った。そして「トウモロコシもスゴいよお……」とつぶやいた。雑草がスゴいって、この間来たときに結構抜いたのでまあ大丈夫だろう。そしてトウモロコシの「スゴい」はきつとスゴい美味しい物が出来ちゃったんだと思い「それでは早速行きますか」と意気揚々と長靴を履き畑に向かった。

畑を見た第一声「うぎゃ〜!」。どこのジャングルなんだあ、こりゃ。腰の辺りまで鉄棒ほどの太さの雑草がモリモリつと生え、中には肩くらいに育ったものもある。作物なんて全く見えない。短期間でこれほど育ってしまう雑草って、恐ろしい。よく「雑草魂」と言うが、人の土壌でこれだけ堂々と立っているのは尊敬に値する。こゝとわざ「我が畑の丈長雑草」というのを作りたいほど。

見事なかじりっぷり、と感心している場合ではない。連中もさぞかし美味かったろう。

ようやく一本発見！
そ〜っと剥いていくと
黄金色の粒が現れた。
やっほお〜ガブリッ。

スゴイトウモロコシが待っていた。

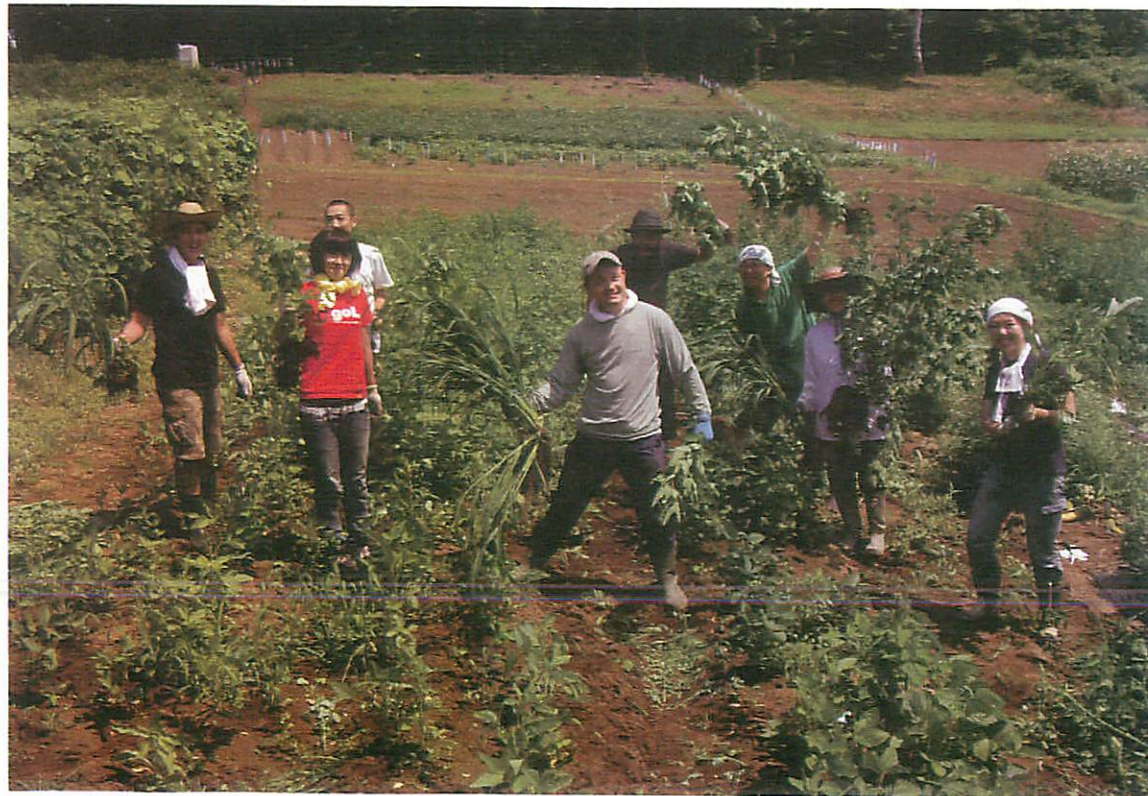


同時に「ちゃんと手入れをしないと大変なことになる」の意味になりそうだ……反省。いやはや、この畑一面を覆った強靱な雑草は、まるで宇宙人に侵略されてしまう地球のようでもある。このままではエイリアン雑草に侵食されてしまう。よおし、と引っこ抜くが一本抜くのひと苦労だ。こんなんで大丈夫か!?

編集長の今井田さんと今回から参加した編集部・青木さんとで中へ踏み込んでいく。雑草を掻き分け、トウモロコシのところへ向かった。再び「うぎゃー!」。そして「な、ない!」キレイにかじられている。どうやら動物にやられたらしい。この辺りは収穫の時期になると、注意しないとやられるらしい。皆でいろいろ考えた結果、猿ではないかということ。チクシヨ〜ッと怒りが沸いてくる。

しかし前向きな我々は「猿も喜ぶトウモロコシ」「コレを食べたら他は食べられません。猿一同」などとトウモロコシのナイスなコピーを必死で考えてなんとか気持ち落ち着かせようとした。後に猿ではなくハクビシンか狸ではないかということになったが、正確なところは不明。

今日は頼りになる農家出身ライターの森山くんが、本業で翌日から参加とのこと。しかし、このところ僕は、山梨、長野方面で仕事



敵もサルもの…夏の雑草、手強い!

エイリアン雑草から畑を守る使命に燃えた畑防衛隊が行くっ! 太い雑草が生い茂り作物が見えない。収穫の写真ではない。雑草から畑を守った隊員。草が退散する「大雑草!」



がある際、「近くに畑があるの
で来ませんか？ トウモロコ
シ食べ放題ですよん」と声を
かけていた。すると興味を示
した何人かの方々が駆けつけ
てくれることになった。ざぶ
とん亭馬場さん、山猫亭太田
さん、こう書くと珍しい屋号
の嘶家みただが違う。ざぶ
とん亭さんは地元山梨で愉快
な企画請負人の馬場憲一さん。
今回は落語会仲間の中野路代
さんと一緒に登場。山猫亭さ
んは、下諏訪のお蕎麦屋さん。
先日下諏訪の落語会に呼んで
いただき、その世話人の一
人が太田伊智雄さんで、とて
も親切で楽しい人だ。太田さ
んは奥様と友人の小平剛志さ
んを誘って参加。そこに数日
前仕事で一緒になった地元山
梨放送局YBSの坂井春美さ
んも加わった。まず食べ放題
のトウモロコシは無いということ、雑草が半端じゃな
いことを伝える。それでも皆快く「やりまっすよ！」。
ありがたい。鬼に金棒VS畑に雑草。雑草との格闘のた
め畑に足を踏み入れた。「我ら畑防衛隊出動！」皆よく
喋り、大いに笑う。しかし炎天下でだんだん口数が少な
くなる。仕舞いには言葉少なくダジャレを言い始めたが、
頭がぼんやりしてきて何がなんだかわからなくなる。誰
かが、「根っこが、どこにもネエ〜コ」と言うと「いい
ねえ〜、じゃあ葉っぱがあ〜ば」と、なんだかだんだ
ん意味不明に。そんな中、佐藤さんがぼそっと『大雑草』
ってどっ？』と言った。ハマった。

そして畑防衛隊が出動…!?

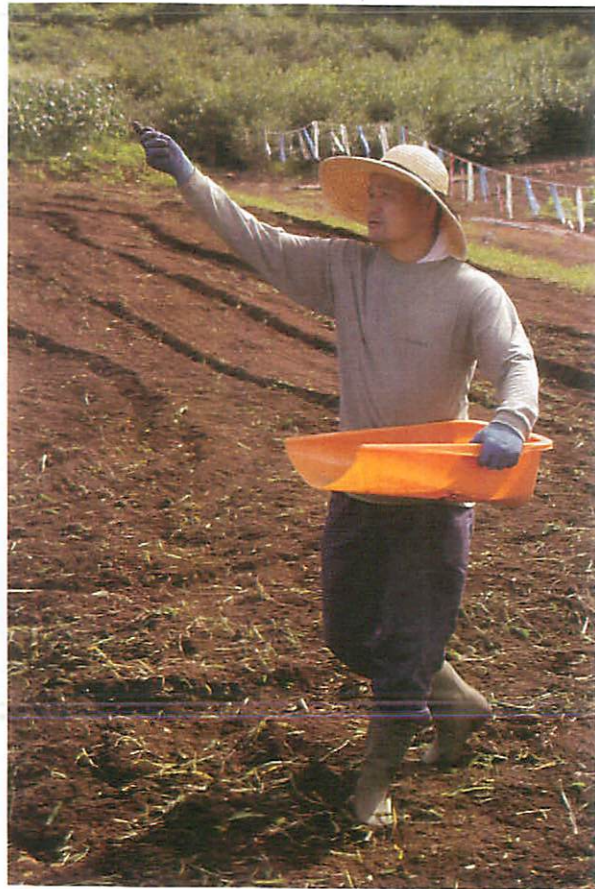
蕎麦を撒くため、まずは皆と
甲斐駒ヶ岳に見守られながら
トラクターで攪拌っ。



改めて作物の様子を見てみる。被害にあったトウモロコシの中に奇跡的に助かった物があつた。「あつたぞお〜」と誰かが言つと、ぞろぞろ集まる。皆の見守る中、剥いていくと、中には黄金色のトウモロコシの粒が輝いていた。そのまま皆でちよつとずつかじる。ジューシーであま〜い。トマトはどうだろう？ 見てみると、真っ赤なたくさんのプチトマトが光輝いていた。これまた甘い。トマトの下で何かが動いた。葉っぱをそつとどけてみるとカブトムシだ。よく見るとオスメス2匹ずつ。いることにも驚いたが、トマトが、カブトムシを呼ぶほど甘いことにも驚く。10人弱もの人手があつたお陰で、あれだけあつた雑草がキレイに無くなり、作物達が現れた。いや〜おつかれさま〜。雑草との格闘を皆で^{ねまら}労つた。

翌朝一番で、畑に行く。そう、今回のメイン作業は、実は雑草取りではないのだ。松坂さんが「いや〜昨日雑草頑張りましたねえ〜、次はお蕎麦ですよ」と待っていてくれた。トラクターで畑を攪拌。そこに蕎麦を撒く。そして再び浅く攪拌する。これまでの作物は種をひとつ一つ植えていたのだが、蕎麦は、ぱあ〜と撒けばよい。馬場さんがミレーの「種をまく人」のようだと言うが、僕の脳内トウモロコシの悪夢からか「権兵衛が種撒ぎやカラスがほじくる」が渦巻いている。

この広さでどれくらいの量が出るのか見当がつかない。本職がいるので太田さんに聞いた。するとだいたい250人前くらいらしい。よし、秋は蕎麦パーティーだ！ そして次回はいいよ治助羊の収穫なのだ。



脳内には「権兵衛が種撒ぎや……」がこだますが、ミレーの「種をまく人」を意識。

お蕎麦屋さん・太田さん、ようやく駆けつけた森山くんらとともに、蕎麦撒き終了〜！

食われたそばから種を撒く！





林家彦いちさん

昭和44年鹿児島生まれ。平成元年、林家木久蔵門下へ入門、14年に真打昇進。『林家彦六賞』受賞(平成16年)他受賞歴多数。本年度『彩の国落語大賞』にて大賞受賞。数々のオリジナル新作落語と独自の味つけの古典落語、共に彦いち的世界観の広がる高座を全国で繰り広げている。カメラ、カヌー、格闘技が趣味で、大学時代極真空手の道場に通っていたという武闘派噺家。「久米宏のラジオなんですけど」(TBS)レギュラー出演他、テレビ・ラジオでも幅広く活躍。近著に『いただき人生訓』ほか。原作監修の落語漫画『如春亭へようこそ』(星野めみ・著)発売中。

『彦いち噺 DVD-BOX』(2枚組、7980円)も発売中。

9月23、24日には公演「SWAクリエイティブツアー」(新宿明治安田生命ホール)開催。

<http://www.hikoichi.com>には他の公演情報も！

閉じる

